



## 2019年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2018年7月31日

上場会社名 株式会社サンリオ 上場取引所 東  
 コード番号 8136 URL <http://www.sanrio.co.jp/corporate/ir/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 辻 信太郎  
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 江森 進 (TEL) 03-3779-8058  
 四半期報告書提出予定日 2018年8月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2019年3月期第1四半期の連結業績(2018年4月1日~2018年6月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第1四半期	13,907	3.5	1,336	4.5	1,695	28.4	1,066	5.1
2018年3月期第1四半期	13,437	△10.5	1,279	△37.0	1,320	△25.9	1,014	△18.4

(注) 包括利益 2019年3月期第1四半期 130百万円(△84.9%) 2018年3月期第1四半期 861百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年3月期第1四半期	12.57	—
2018年3月期第1四半期	11.96	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年3月期第1四半期	97,971	51,592	52.4
2018年3月期	98,274	52,734	53.4

(参考) 自己資本 2019年3月期第1四半期 51,354百万円 2018年3月期 52,491百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期	—	40.00	—	15.00	55.00
2019年3月期	—	—	—	—	—
2019年3月期(予想)	—	15.00	—	15.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2019年3月期の連結業績予想(2018年4月1日~2019年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	28,800	1.8	2,100	△12.6	2,200	△17.4	900	△53.5	10.61
通期	60,600	0.6	5,200	△9.3	5,400	△10.3	3,000	△39.1	35.36

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
 新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

2019年3月期1Q	89,065,301株	2018年3月期	89,065,301株
2019年3月期1Q	4,218,473株	2018年3月期	4,218,473株
2019年3月期1Q	84,846,828株	2018年3月期1Q	84,847,093株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料5ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間（海外：2018年1月1日～2018年3月31日、国内：2018年4月1日～2018年6月30日）においては、国内は、東京都多摩市、及び大分県の両テーマパークが好調で、特に多摩市のサンリオピューロランドは、メルヘンシアターの新作「KAWAII KABUKI～ハローキティ一座の桃太郎～」が大好評で、増収増益に大きく貢献しました。また、6月30日より運行を開始したJR西日本の「ハローキティ新幹線」が大きな話題となりました。海外では、アジアは中国における空間ビジネスの好調や、香港市場でのライセンスの回復などにより、前連結会計年度に引き続き堅調に推移しておりますが、欧米は、業績回復に向けた施策に着実に取り組んでいる状況です。

これらの結果として、売上高は、139億円（前年同期比3.5%増）、営業利益は13億円（同4.5%増）、営業外収益として投資事業組合運用益2億円等を計上したことにより経常利益は16億円（同28.4%増）でした。特別損益に投資有価証券売却益3億円、投資有価証券評価損5億円等を計上した結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は10億円（同5.1%増）となりました。

当社は、2018年5月11日に公表しましたように、当連結会計年度を初年度とする、3ヶ年の中期経営計画『Marketing Innovation Project 2021』をスタートさせました。“ソーシャル・コミュニケーション・ギフトビジネスの会社として戦略的なグローバル企業に変革する”ことを目指して計画を推進してまいります。

なお、すべての海外連結子会社の決算期は1月～12月であり、当第1四半期連結累計期間の対象期間は、2018年1月～3月であります。

〔報告セグメント〕

(単位：億円)

		売上高				セグメント利益（営業利益）			
		前第1 四半期	当第1 四半期	増減	増減率	前第1 四半期	当第1 四半期	増減	増減率
日本	物販その他	76	79	3	4.5%	10	11	0	9.3%
	ロイヤリティ	22	22	0	2.7%				
	計	98	102	4	4.1%				
欧州	物販その他	0	0	△0	△12.8%	0	0	△0	△25.4%
	ロイヤリティ	6	6	△0	△2.0%				
	計	6	6	△0	△2.1%				
北米	物販その他	2	2	0	2.6%	△1	△1	△0	-
	ロイヤリティ	4	4	△0	△2.1%				
	計	6	6	△0	△0.5%				
南米	物販その他	0	0	0	429.5%	0	0	△0	△41.9%
	ロイヤリティ	2	1	△0	△32.5%				
	計	2	1	△0	△31.4%				
アジア	物販その他	1	2	1	70.1%	7	8	0	4.5%
	ロイヤリティ	18	19	0	3.1%				
	計	20	21	1	8.3%				
調整額		-	-	-	-	△4	△4	△0	-
連結	物販その他	80	84	4	5.8%	12	13	0	4.5%
	ロイヤリティ	54	54	0	0.2%				
	計	134	139	4	3.5%				

(注) 海外地域の子会社は、ロイヤリティ収入に対して相応の額を売上原価として著作権所有者である日本の親会社に支払っており、それを親会社は売上高として計上しておりますが、連結消去されるため上表の日本の売上高にはその相当額は含まれておりません。セグメント利益（営業利益）には反映されております。

なお、ここに示す売上高は、外部顧客に対する売上高であり、前述のロイヤリティに限らず報告セグメント間売上高は内部取引高として消去しております。

## ① 日本：売上高102億円（前年同期比4.1%増）、営業利益11億円（同9.3%増）

物販事業は、地方・郊外の消費動向は厳しい状況が続いておりますが、大都市圏の旗艦店舗やインバウンド集客の高い店舗が伸長したことにより、既存店売上(直営店及び百貨店の当社直営ショップベース)が前年同期比100.5%と前年を上回りました。インバウンド関連では専門店、ドラッグストアへの卸しが好調のほか、訪日外国人の増加が大きい博多のキャナルシティオーパにおける「サンリオギャラリー博多店」移転リニューアルオープンなどの施策が奏功しました。その中で、2年連続でキャラクター大賞1位に輝いた『シナモロール』や、1970年代、1980年代に活躍したキャラクターの再登場などが好評を博しました。今後につきましては、6月下旬より西武池袋本店で開催された「ぐでたまてん」が非常に好評であったことから、5周年記念の『ぐでたま』をメインとした店舗環境や、店頭イベントによる集客策の提案や、更に増加が見込まれるインバウンド対策としてのキャンペーンへの参加などの施策を実施し、話題づくり、販売増に努めてまいります。

ライセンス事業は、商品化権ライセンスでは、サンリオキャラクターのワイド展開を中心とした雑貨関係や、アニメ系コンテンツとのコラボレーション企画、接触冷感寝具企画等夏物カテゴリーや、『ミスターメン リトルミス』のアパレルが好調でした。対企業企画では、フマキラー株式会社の虫よけ商品や、小林製薬株式会社の衛生用品などが堅調であったことに加え、日本マクドナルド株式会社の『ぐでたま』デザートや、日本郵便株式会社の『ハローキティ』切手が大きく貢献しました。また、ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社、アサヒ飲料株式会社、味の素冷凍食品株式会社などの大手食品メーカーとの店頭お買い上げ促進キャンペーンや、株式会社カネボウ化粧品とのメイクアップ用品の広告宣伝契約を獲得しました。

テーマパーク事業は、大分県のハーモニーランドでは、入園者数は92千人（前年同期比10.0%増）と前年同期比8千人増加しました。主にゴールデンウィーク期間中の県外客が堅調に推移したことや企業の会員企画の新規獲得や特定イベント等の開催もあり、集客を伸ばしました。営業損益は、ゴールデンウィークに向けて施設の魅力度向上のためのアトラクションのリニューアル（キャラクターヒルズを展開）の費用が増加しましたが、増益となりました。夏季に向けては、涼感を伴うショーやプールエリアの集客強化を図るとともに夜間営業日以外の日についても営業時間を延長し、夕方の来園を促進します。更には、新規の会員企画の獲得、北部九州エリアの子育てファミリー世帯への夏季限定割引券の頒布等の施策を図ることで、入園者数の増加に取組みます。

東京都多摩市のサンリオピューロランドは、入園者数は303千人（前年同期比16.4%増）と前年同期比42千人増加しました。今年3月からスタートした、松竹株式会社とのコラボレーションによるメルヘンシアターの新作「KAWAII KABUKI～ハローキティ一座の桃太郎～」が評判となり、さらに6月には、フェアリーランドシアターで前作に続き、株式会社ネルケプランニングとのコラボレーションによる男優だけの新作ミュージカル「MEMORY BOYS～思い出を売る店～」がスタートしました。入園者増により、チケット売上、お土産などの商品売上、レストラン売上のすべてが前年同期に比べ2桁増加でした。さらに、イベントや対企業関連の売上も前年同期比4割増加しました。営業損益は、集客増によりイベント開催による人件費等の増加を補い増益となりました。

その他の事業のロボット事業に関しては、博物館向けや、ホテルの人体型受付案内ロボットなどの特注ロボットの納品が売上に貢献しました。

## ② 欧州：売上高6億円（前年同期比2.1%減）、営業利益17百万円（同25.4%減）

欧州では、主要諸国の売上は依然厳しい状況にあり、ほとんどのライセンスカテゴリーにおいて減少傾向が見られる状態にあります。一方中近東、東欧圏における底堅い成長や、イースター関連での大手チョコレートメーカーとのグローバル展開が好調でした。加えて、『ミスターメン リトルミス』につきましては、フランスにおいて出版が好調であり、市場を牽引しました。また、担当テリトリーの一部をアジア子会社に移管した影響や、ロンドンオフィスの体制強化による人件費増などにより営業利益が減少しました。

引き続き、ハイエンドブランドとのコラボレーションの実施や、ファストファッションとの連携の強化を図るとともに、有名You Tuberなどインフルエンサーを活用したマーケティングを行ってまいりま

す。

③ 北米：売上高6億円（前年同期比0.5%減）、営業損失1億円（同30百万円損失増）

米国では、サンフランシスコの米国子会社本社及び倉庫の売却に伴い、賃貸収入が無くなりましたが、Eコマースの伸長などが業績を下支えしました。「PUMA」とのブランドコラボレーションの成功など今後の波及効果も期待されます。また、スペシャリティストアとのショッピングインショップの商談を進めており、引き続き今期中の業績底打ちを目指してまいります。

④ 南米：売上高1億円（前年同期比31.4%減）、営業利益27百万円（同41.9%減）

南米地域は、ブラジルでは、イースター関連の食品や、アパレル、家庭用品が好調でしたが、メキシコでのヘルス&ビューティ等の不調が業績全体に影響しました。地域全体の 카테고리では、食品、靴、ホーム用品が好調でしたが、主力カテゴリーのヘルス&ビューティ、玩具・スポーツの不調が影響しました。

⑤ アジア：売上高21億円（前年同期比8.3%増）、営業利益8億円（同4.5%増）

台湾では、商品化権ライセンスの主要カテゴリーである、アパレル、アクセサリ、家庭用品が好調でした。

香港では、香港市場での個人消費の回復もあり好調で、特にボディケア用品や、家電販売チェーンの販促キャンペーンが貢献しました。前連結会計年度において、高成長を遂げたタイにつきましては、若干厳しい状況がみられますが、ホテルやスポーツイベント等の広告化権ライセンスに取り組んでおります。また、フィリピン、インドネシアにつきましては、まだ市場規模が小さく、現在、イベントライセンス等で、ブランドポジションを構築し、商品化権の拡大を目指しております。

中国では、宝石・金業界の低迷によるアクセサリ関連の落ち込みや、コスメ・化粧品関連においての主要ライセンスの方針変更にもより苦戦している部分はありますが、それを補うべく『ぐでたま』ほかのキャラクターによる新商品開発や、さらに継続性のある新規大手ライセンスの開拓に注力しております。

キャラクターでは、中国における『バッドばつ丸』、韓国では『リルリルフェアリル』、その他地域で『シナモロール』の伸長が、『ハローキティ』以外のキャラクターの構成比増に貢献しました。

参考：海外子会社 売上高・営業利益（現地通貨ベース：連結消去前個別財務諸表数値）

	売上高			営業利益
	ロイヤリティ	物販	計	
ドイツ 千EUR	3,680	17	3,697	355
(前年同期比増減%)	△10.0	△45.1	△10.3	284.9
英国 千GBP	961	7	968	△157
(前年同期比増減%)	△31.6	△92.7	△35.6	—
北米 千USD	4,108	2,210	6,319	△1,692
(前年同期比増減%)	2.4	7.3	4.0	—
ブラジル 千BRL	5,302	109	5,412	839
(前年同期比増減%)	△26.3	259.4	△25.1	△30.8
チリ 千CLP	—	—	—	△5,695
(前年同期比増減%)	—	—	—	—
香港 千HKD	35,237	11,604	46,842	14,614
(前年同期比増減%)	4.3	5.1	4.5	△0.9
台湾 千NTD	96,730	34,437	131,168	40,044
(前年同期比増減%)	1.9	348.0	27.8	14.6
韓国 千KRW	2,262,382	86,044	2,348,426	621,020
(前年同期比増減%)	△4.6	△45.6	△7.1	△6.2
中国 千CNY	48,005	16,715	64,720	22,946
(前年同期比増減%)	9.0	△16.5	1.0	9.2

## (2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は979億円で前連結会計年度末比3億円減少しました。資産の部の主な増加項目は現金及び預金15億円です。主な減少項目は受取手形及び売掛金15億円です。

負債の部は463億円で前連結会計年度末比8億円増加しました。主な増加項目は有利子負債（1年内償還予定社債を含む）16億円です。主な減少項目は支払手形及び買掛金4億円です。純資産の部につきましては、515億円と前連結会計年度末比で11億円減少しました。主な増加項目はその他有価証券評価差額金5億円です。主な減少項目は為替換算調整勘定16億円です。自己資本比率は52.4%で前連結会計年度末比1.0ポイント減少しました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第1四半期連結累計期間の業績につきましては、概ね計画どおりに推移しており、現在、初年度の業績目標、そして最終年度の業績目標を達成すべく、中期経営計画の各施策を推進しております。

従いまして、2018年5月11日に公表しました第2四半期（累計）及び通期の業績予想についての変更はありません。また、当期配当につきましても、期初発表どおり、第2四半期に15円、期末15円の年間30円の計画を継続します。

## (参考) 海外地域別損益～第1四半期の3期推移

(単位:百万円)

地域		外部顧客に対する売上高					営業利益				
		2016/6	2017/6	増減率 (%)	2018/6	増減率 (%)	2016/6	2017/6	増減率 (%)	2018/6	増減率 (%)
北米	米国	1,165	690	△40.8	686	△0.5	△1	△153	—	△184	—
南米	ブラジル・チリ	256	264	3.1	181	△31.4	77	46	△39.7	27	△41.9
アジア	香港	835	689	△17.5	634	△7.9	255	238	△6.4	209	△12.4
	台湾	397	349	△12.1	461	32.1	139	127	△8.3	148	16.5
	韓国	305	248	△18.5	239	△3.9	66	65	△1.4	63	△2.8
	中国	846	737	△12.9	857	16.2	334	346	3.8	392	13.1
	小計	2,385	2,025	△15.1	2,192	8.3	794	778	△2.0	813	4.5
欧州	ドイツ	810	496	△38.7	490	△1.2	148	11	△92.5	47	323.6
	英国	130	123	△5.3	116	△5.7	10	12	25.5	△29	—
	小計	941	620	△34.1	607	△2.1	158	23	△85.1	17	△25.4
合計		4,748	3,600	△24.2	3,668	1.9	1,028	694	△32.5	674	△3.0



## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2018年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	44,290	45,834
受取手形及び売掛金	7,824	6,227
商品及び製品	4,069	3,827
仕掛品	26	52
原材料及び貯蔵品	116	126
未収入金	880	803
その他	737	739
貸倒引当金	△74	△84
流動資産合計	57,871	57,525
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	5,876	5,798
土地	8,487	8,482
その他(純額)	2,065	2,018
有形固定資産合計	16,430	16,299
無形固定資産	3,905	3,735
投資その他の資産		
投資有価証券	11,513	12,103
繰延税金資産	2,890	2,746
その他	6,934	6,769
貸倒引当金	△1,305	△1,250
投資その他の資産合計	20,033	20,368
固定資産合計	40,368	40,402
繰延資産	33	43
資産合計	98,274	97,971
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,563	4,121
短期借入金	6,737	7,401
未払法人税等	1,564	1,557
賞与引当金	491	756
返品調整引当金	94	65
株主優待引当金	50	30
ポイント引当金	90	90
その他	10,914	10,315
流動負債合計	24,506	24,337
固定負債		
社債	3,263	2,782
長期借入金	7,523	9,433
退職給付に係る負債	6,149	5,775
その他	4,097	4,050
固定負債合計	21,033	22,041
負債合計	45,539	46,379

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2018年6月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	10,000	10,000
資本剰余金	3,423	3,423
利益剰余金	53,779	53,573
自己株式	△11,789	△11,789
株主資本合計	55,413	55,207
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△219	332
繰延ヘッジ損益	△2	0
為替換算調整勘定	247	△1,410
退職給付に係る調整累計額	△2,947	△2,775
その他の包括利益累計額合計	△2,921	△3,852
非支配株主持分	243	237
純資産合計	52,734	51,592
負債純資産合計	98,274	97,971

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2017年4月1日 至2017年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)
売上高	13,437	13,907
売上原価	4,421	4,831
売上総利益	9,015	9,075
返品調整引当金戻入額	19	29
差引売上総利益	9,034	9,104
販売費及び一般管理費	7,755	7,768
営業利益	1,279	1,336
営業外収益		
受取利息	134	106
受取配当金	13	22
為替差益	—	44
投資事業組合運用益	—	221
その他	55	36
営業外収益合計	203	431
営業外費用		
支払利息	43	26
為替差損	9	—
支払手数料	37	38
投資事業組合運用損	59	—
その他	11	7
営業外費用合計	162	72
経常利益	1,320	1,695
特別利益		
固定資産売却益	0	—
投資有価証券売却益	128	335
特別利益合計	128	335
特別損失		
固定資産処分損	9	1
投資有価証券評価損	—	508
減損損失	12	9
その他	—	2
特別損失合計	21	521
税金等調整前四半期純利益	1,426	1,509
法人税、住民税及び事業税	545	601
法人税等調整額	△142	△168
法人税等合計	403	433
四半期純利益	1,023	1,075
非支配株主に帰属する四半期純利益	9	9
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,014	1,066

## 四半期連結包括利益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2017年4月1日 至2017年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)
四半期純利益	1,023	1,075
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	482	551
繰延ヘッジ損益	0	3
為替換算調整勘定	△806	△1,672
退職給付に係る調整額	160	171
その他の包括利益合計	△162	△945
四半期包括利益	861	130
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	859	135
非支配株主に係る四半期包括利益	1	△5

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## I 前第1四半期連結累計期間(自 2017年4月1日 至 2017年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	日本	欧州	北米	南米	アジア	合計		
売上高								
外部顧客への売上高	9,836	620	690	264	2,025	13,437	—	13,437
(うちロイヤリティ売上高)	(2,218)	(616)	(456)	(264)	(1,867)	(5,423)	(—)	(5,423)
セグメント間の 内部売上高又は振替高	1,421	6	1	0	368	1,797	△1,797	—
(うちロイヤリティ売上高)	(1,380)	(6)	(—)	(—)	(0)	(1,387)	(△1,387)	(—)
計	11,258	627	691	265	2,393	15,234	△1,797	13,437
セグメント利益又は損失(△)	1,010	23	△153	46	778	1,705	△425	1,279

- (注) 1. セグメント利益又は損失の調整額 △425百万円は、セグメント間取引消去及び配賦不能営業費用であり、配賦不能営業費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため記載を省略しております。

## II 当第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	日本	欧州	北米	南米	アジア	合計		
売上高								
外部顧客への売上高	10,238	607	686	181	2,192	13,907	—	13,907
(うちロイヤリティ売上高)	(2,277)	(604)	(447)	(178)	(1,924)	(5,432)	(—)	(5,432)
セグメント間の 内部売上高又は振替高	1,391	6	1	0	299	1,698	△1,698	—
(うちロイヤリティ売上高)	(1,324)	(6)	(—)	(—)	(0)	(1,330)	(△1,330)	(—)
計	11,629	613	687	181	2,492	15,605	△1,698	13,907
セグメント利益又は損失(△)	1,103	17	△184	27	813	1,777	△441	1,336

- (注) 1. セグメント利益又は損失の調整額 △441百万円は、セグメント間取引消去及び配賦不能営業費用であり、配賦不能営業費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため記載を省略しております。